

事業評価調書

◎基本情報

年度	令和3年	会計コード	10	一般	事業コード	36747	
事業名	重症心身障がい児者等受入促進費						
評価担当課	所属名	保)障がい保健 障がい福祉課					
	課長名	渡邊 亘	担当者名	山口 雄太郎	電話番号	011-211-2938	
施策名	主	地域に密着した保健福祉サービスを提供する環境づくり					
	副						
アクションプラン	● 対象 ○ 対象外		戦略ビジョン	● 対象 ○ 対象外			
事業の性質	○ 経常経費 ● 臨時的経費						
	○ 内部管理 ○ 法定経費 ○ 指定管理						
事業内容	実施形態	○ 直営 ○ 一部委託 ○ 全部委託 ● 補助助成 ○ その他					
	目的	短期	令和元年度から4年度までの4年間で、補助事業所数28事業所、新規受入者数28人(生活介護8人、短期入所8人、共同生活援助4人、障害児通所8人)を目標とし、重症心身障がい児者等の支援体制の整備を図る。				
		長期	重症心身障がい児者等が安心かつ充実した地域生活を営むために、日中活動場所(生活介護、児童発達支援、共同生活援助、児童発達支援及び放課後等デイサービス事業所)における受入れ体制を整える。				
	取組内容	【受入促進事業】生活介護、短期入所、共同生活援助、児童発達支援・放課後等デイサービス事業所(以下「生活介護事業所等」という)が重症心身障がい児者または医療的ケアを必要とする障がい児者(以下「重症心身障がい児者等」という)を受入れるために看護師を配置する場合、その人件費の一部を補助する。 【地域生活支援事業】重症心身障がい児者等の日中活動及び保護者のレスパイトケア推進のため、新たに新規設置又は受入増を図る生活介護事業所等に対し、医療機器等の備品購入費及び設備・施設改修費を補助する。					
実施結果	【受入促進事業】○補助件数:8事業所(うち新規3事業所)、看護職員配置人数:39人(うち新規雇用22人)、受入人数:97人(うち新規受入36人)○看護職員の配置人数増加に伴い事業所の支援体制整備が進み、重症心身障がい児者等の受入増加につながった。 【地域生活支援事業】○補助件数:2事業所、受入人数:10人(うち新規10人)○事業所の新規整備に伴う改修等工事費用の補助を行うことにより、重症心身障がい児者等の受入数拡大が図られ、重症心身障がい児者等に対するサービス提供基盤の整備が進められた。						
事業実施における工夫点	市内障害福祉サービス事業所に広く事業の周知を行い、新規補助の推進を図った。						
対象者	市内障害福祉サービス等事業所			開始	平成24年度	終了	0年度
関連法令・条例・要綱等	○札幌市重症心身障がい児者等受入促進事業実施要綱 ○札幌市重症心身障がい児者等地域生活支援事業実施要綱						
他都市の状況	仙台市にて重度重複障害者等に対する適切な支援を行うために必要な職員を配置した場合に補助金を交付する「重度重複障害者等受入通所施設等運営費補助」を行っている。						

◎事業費

(単位:千円)

	令和2年度決算	令和3年度予算	令和3年度決算	令和4年度予算	
事業費	19,890	36,000	23,170	35,000	
うち特定財源	0	0	0	0	
人工	0.1	0.1	0.1	0.1	
人件費	720	720	720	720	
計(事業費+人件費)	20,610	36,720	23,890	35,720	
事業費の内訳	令和3年度決算	【受入促進事業】 補助金 15,170千円(8件(うち新規3件)) 【地域生活支援事業】 補助金 800千円(2件)			
	令和4年度予算	【受入促進事業】 補助金 27,000千円(15件) 【地域生活支援事業】 補助金 8,000千円(3件)※政策経費による予備費500千円含む			

◎検証(振り返り)

活動指標1	指標名			
	令和2年度実績	令和3年度予定	令和3年度実績	令和4年度予定
活動指標2	指標名			
	令和2年度実績	令和3年度予定	令和3年度実績	令和4年度予定
成果指標1	指標名	重症心身障がい児者等の受入増の人数(累計)		
	令和2年度実績	令和3年度目標	令和3年度実績	令和4年度目標
	251	257	297	303
成果指標2	指標名			
	令和2年度実績	令和3年度目標	令和3年度実績	令和4年度目標
項目	判定	理由		
事業の成果 (目的をどの程度達成できたか)	A	【受入促進事業】○補助件数:8事業所(うち新規3事業所)、看護職員配置人数:39人(うち新規雇用22人)、受入人数:97人(うち新規受入36人)○新規受入人数について、目標である4名を超えることができた。 【地域生活支援事業】○補助件数:2事業所、受入人数:10人(うち新規10人) ○新規受入人数について、目標である2名を超えることができた。		
事業規模 (事業ボリュームは適切か)	A	【受入促進事業】○令和3年度の新規補助は3件(4枠)であったが、令和4年度には予算額を超える件数の申請(相談含む)があり、予算規模としては適正と思われるため、今後も同様の規模で補助を実施する。 【地域生活支援事業】○令和3年度の補助件数は2件であり、予算限度額まで執行していることから、今後も同様の規模で補助を実施する。		
事業の実施手法 (事業の効率性、実施主体は適切か)	A	【受入促進事業】○重症心身障がい児者等の支援体制を強化するためには、看護職員の配置は必要不可欠であり、看護職員の配置費用の一部を補助する事業手法は適切である。 【地域生活支援事業】○生活介護・短期入所事業所等に対して重症心身障がい児者等を受け入れるための備品購入及び設備改修費用の一部に対して補助を行うことにより、事業所の費用負担を軽減することができ、受入の促進につながっていることから、実施手法は適切である。		
対象者の満足度 (対象者のニーズにしているか)	A	【受入促進事業】○事業所の支援体制の強化による受入人数の増加につながり、補助対象者のニーズに応じたものとなっている。 【地域生活支援事業】○重症心身障がい児者等の受入拡大につながっており、補助対象者のニーズに応えたものとなっている。		
市民参加の実施	<input type="checkbox"/> 企画 <input type="checkbox"/> 実施 <input type="checkbox"/> 評価 <input checked="" type="checkbox"/> 対象外		市民参加結果への対応	<input type="checkbox"/> 回答 <input type="checkbox"/> 反映
今後の改善点	年度によっては、予算限度額までの補助申請がないため、当補助金制度の周知の内容・方法、更なる受入の促進やサービス提供基盤の整備促進を図ることを検討する。			
前回の評価	● A ○ B ○ C ○ 評価省略対象事業・前年度実施なし			
今年度取り組んだ見直し内容	特になし		見直し効果額 (前年度)	0 千円
今回の評価	● A ○ B ○ C ○ 評価省略対象事業・前年度実施なし			
評価の理由	新規受入人数が目標である6名(受入促進事業4名、地域生活支援事業2名)を大幅に超えることができたため			
次年度の取組の方向性・改善内容	事業内容	○ 改善 ● 現状維持 ○ 休止・廃止 現状の事業内容を継続する。		
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ その他 適正に予算を執行し、引き続き基盤整備を進める。		見直し効果額 0 千円